

東北大学附属図書館報

木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

目 次

○シリーズ 貴重図書—中村正直訳 『西國立志編』、『西洋品行論』、『自由之理』 をめぐって……………1	○国立大学附属図書館協議会シンポジウムに 参加して……………11
○当面の課題に関する検討委員会報告に ついて……………5	○水彩画「山湖新緑」の受贈について……………15
○第50回 東北地区大学図書館協議会総会…………9	○マイクロフィルム『第二高等学校一覧』の 贈呈式について……………15
○第36回 東北地区医学図書館協議会……………10	○人事異動……………17
○平成7年度東北大学附属図書館職員 総合研修会……………10	○会 議……………17
	○編集後記……………18

シリーズ 貴重図書

中村正直訳『西國立志編』、『西洋品行論』,
『自由之理』をめぐって

東北大学大学院国際文化研究科教授 阿 野 文 朗

1. はじめに

日本の歴史を通じて最も貪欲に、そして最も性急に西洋文化を取り込もうとしたのが、明治という時期であったことは言うまでもない。ペリーの来航からわずか15年程で誕生した明治日本は、一挙に鎖国による遅れを取り戻そうとして、欧米先進国のあらゆる文化を日本近代化の手本にしようとしたのである。

明治初期における西洋文化の導入で最も大きな役割を果たした人物の一人として忘れてはならないのが、啓蒙思想家で教育者の中村正直（号は敬宇、1832-91）である。中村は儒学を修めた後、慶応2年イギリスに渡り、帰国後、明治6年に福沢諭吉の慶応義塾と並び称された私塾・同人社を小石川に開いて、ここでイギリス文化を教えた。そして、後に東京帝国大学で中国

文学と中国哲学を講じるが、中村はキリスト教を基礎とする西洋文化が卓越していることを説き、更に、儒教道徳と西洋道徳には一脈通じるところがあると教えたのである。

中村には、数多くの啓蒙的著作があるが、中でも、明治の知識人に多大の影響を与えたものとして、イギリスの社会改良家サミュエル・スマイルズ（1812-1904）の *Self-Help*（1859）の邦訳『西國立志編』と、同じくスマイルズの *Character*（1871）の邦訳『西洋品行論』、それにイギリスの哲学者で経済学者のジョン・スチュアート・ミル（1806-73）の *On Liberty*（1859）の邦訳『自由之理』を挙げなければならないだろう。実は、これらの著作の手書きの原稿が、東北大学附属図書館の狩野文庫に所蔵されているのである。附属図書館新館4階の貴重図書展示室で、最初に中村の訳稿を目にしたとき、筆者は、改めて狩野亨吉先生の偉業に感嘆することであった。以下、中村の訳稿に触れながら、明治日本の近代化に大きく貢献したこれらの著作について簡単に認めてみたい。

2. 『西國立志編』

中村が訳したスマイルズの *Self-Help* は、明治4年、原名の『自助論』を小さく併記して『西國立志編』の題名で出版された。実は、訳稿の中には「自助論」あるいは「自序廣説」とあるのみで、「西國立志編」という表記は一度も出てこないが、これを邦訳の表題としたのは適切であったと言わなければならないだろう。他に依存せず自分の力で事をなすという「自助」の概念が、明治のこの時期においては、いささか時代に先行するものであったと思われるからである。これに対して、「立志」の方は自然に抵抗なく受け取られたと考えてよい。ちなみに、明治7年には「立志社」という名称の政治結社が結成され、自由民権運動の中心となっている。

東北大学附属図書館所蔵の原稿は、原書13章のうち序文と第1章から第4章までの4つの章の訳稿である。原稿用紙は、二つ折りの和紙で、

片面が縦20字、横10字の横長の柀目から成るもので、これに毛筆で丁寧に書き込まれた几帳面な字が並んでいる。「自序廣説原序」の表紙には「二稿」と記されているが、原稿に朱が入れてあることなどから判断して、恐らくこれが最終稿ではないかと思われる。

スマイルズの *Self-Help* は、元号が明治に切り替わる年、中村がイギリスを去るときに友人から贈られたものである。中村は、この書物こそが西洋の自助の精神を伝えるものと考え、明治3年にこれを訳しはじめ、翌4年、『西國立志編』として刊行した。そして「明治の聖書」として愛読されたこの書物は、明治5年に発行された福沢諭吉の『学問のすゝめ』と並んで、明治初期の大ベストセラーとなったのである。

『西國立志編』は、科学者、芸術家、作家など様々な人物の伝記を例に挙げて、「自助」の精神の重要性を説いた大衆的な道徳書である。福沢が西洋の物質文明に重きを置いたのに対して、中村は西洋文明の精神面に傾倒し、やがてその根底に流れるキリスト教の洗礼を受けるにいたるのである。

『西國立志編』は、いわゆる文学案内の書ではない。だが、この中には、シェイクスピア、ミルトン、サミュエル・ジョンソン、ウォルター・スコット、ウィリアム・ワーズワス、カーライル、ワシントン・アーヴィングなど、英米の文人が数多く紹介されている。そのため、この書物が、同時に西洋文学の入門書としての役割を果たしたことは確かである。ちなみに、柳田泉もこの点に注目して、『西國立志編』が「西洋文学知識を豊富に含んでいる点からも見直さるべきもの」と述べている。（『明治初期翻訳文学の研究』春秋社、1961年、169頁）

『西國立志編』は、また翻訳の歴史の中でも記憶されなければならない。中村は、これを訳出するのに漢文調の和漢混淆体を用いて成功したが、これは、後に森田思軒が完成する、いわゆる「周密文体」と呼ばれる文体の先駆となるものであった。第1編の冒頭にある「天ハ自ヲ



第1編冒頭にある「天ハ自ヲ助ケルモノヲ助ケ」

助ケルモノヲ助ケト云ヘル諺ハ、確然経験シタル格言ナリ」で始まる『西國立志編』の文体が後世に与えた影響は大きい。英文学者で、翻訳史の研究家でもあった吉武好孝の言葉を引くと、「これは原文の一字一句をもゆるがせにせず忠実にかつ厳密に和訳しようとしたもっとも早いものであるという点で、わが国のほんやく史上ひとつのエポックをなすものである。」(『明治・大正の翻訳史』, 研究社, 1959年, 40頁)『西國立志編』は、当時の人々を思想的に大きく啓蒙しただけでなく、その訳文もまた甚大な影響を及ぼしたのである。

3.『西洋品行論』

原書 *Character* は12章から成るが、狩野文庫所蔵の原稿は、第1章と、第3章から第9章までの8つの章の訳稿である。ただし、第1章は三分の一弱のところまでの訳稿しかない。使用されているのは、片面200字詰め二つ折りの和紙の原稿用紙に加えて、中村がその校長を勤めた「東京女子師範学校」の校名が入った縦書きの罫紙と、印刷された和紙を裏返して使ったものである。廃物利用の紙が使われているのは第



『西國立志編』原序第1編の表紙(原稿の中では「自助論」あるいは「自助廣説」と表記されている。)

8章と第9章であるが、ぎっしりと無造作に書き込まれていることなどから判断して、最終稿ではなく恐らく草稿であったと思われる。

『西洋品行論』は、最初、明治11年に第1編と第2編が出版され、そのあと13年に全編が出版された。これは、理想的人格を具体的に紹介し解説した教養の書であるが、この訳書もまた『西國立志編』に劣らぬ人気を博し、明治日本の読者に西洋道徳を教えるのに大いに貢献した。いや、この書物は平成の今日においても影響力を持ちつづけていると言ってよいかもしれない。実は、スマイルズの *Character* が、つい昨年、『向上心』(三笠書房)という題名の下に翻訳されているからである。これを訳した竹内均は、「あとがき」の中で、「たゆみない勤勉と努力を傾けつくすことが成功の大道であることを実感させてくれる書として、本書にまさるものはないと言っても過言ではあるまい」と書き、これを「人生指針の書」として推奨している。

『西國立志編』と同様に、『西洋品行論』もまた、いわゆる文学案内の書ではない。だが、この書物の中でもシェイクスピア、ミルトン、ワーズワス、キーツ、エマソンなど、数多くの

欧米作家とその作品が紹介されていることを忘れてはならない。例えば第9章で、19世紀のアメリカ作家ナサニエル・ホーソーンが、病的なほどに内気な人間の例として紹介されているが、中村は、『緋文字』で有名なこの作家を「ナサニエル・^{ホーソーン}荷宗」と表記し、このところを「^{アメリカ}亜米利加の著述家ナル^{ホーソーン}荷宗ハ亦^{ツラ}避ケ臆スル性アリテ癡疾トナリタリ……」と訳している。明治の一般読者は、中村が訳した『西洋品行論』の中で、初めてホーソーンという作家の名前を知ることになるのである。ちなみに、ホーソーン作品に関しては、『アメリカン・ノートブックス』への言及と『大理石の牧神』から引かれた短い引用がある。『西洋品行論』が、わが国において西洋文学が普及する一つの大きなきっかけを作ってくれたことは確かである。



『西洋品行論』第1編の最初の頁

4. 『自由之理』

『自由之理』は、明治5年、中村が翻訳刊行した、ジョン・スチュアート・ミルの代表的論文 *On Liberty* の最初の邦訳である。東北大学図書館所蔵の原稿は、5章から成る原書の完訳である。「敬齋鈔本」の銘の入った片面が200字詰め原稿用紙が使われているが、訳稿には訂正箇所が目立つ。

ミルの論文は、功利主義哲学の立場から個人対社会の正しい関係について考察し、個人の自由と社会の強制がどのように調和さるべきかを論じたものであるが、中村がこのような論文を明治最初期に翻訳刊行したことは、実に画期的であったと言わなければならない。『自由之理』が、当時の民権思想家に多大な影響を与えたことは言うまでもない。明治日本で自由民権思想が全国的な広がりを見せるのは、西南の役のころからであるが、『自由之理』は、明治10年に服部徳が訳したルソーの『民約論』などとともに、この時期、政治運動の教科書としての役割を果たした。

中村の自由観は、西洋道徳と儒教道徳を同一視する発想に基づくものであるが、一般には、自由と道徳を重ねて考えようとしたところに、中村の限界があったと見なされている。だが逆に、これこそがもともと欧米の概念である自由を日本に導入するための中村の工夫、いや英知であったという見方も出来るかもしれない。



『自由之理』第1章序引の最初の頁

5. おわりに

東北大学附属図書館には、中村が所蔵していた、新約聖書「ルカ伝」の和字解本『路加傳福音書』がある。中村は、キリスト教禁制の高札

が撤廃された翌明治7年のクリスマスに、同人社の英語教師で宣教師のジョージ・コ克蘭から洗礼を受けたが、明治期の西洋文化導入の功労者・中村がキリスト教徒であったことは注目に値する。

明治期における欧米文化の導入を考えると、けっして閑却できないのがキリスト教との関わりである。この時期、西洋文化の導入に大きく関わったのは、福沢諭吉など少数の例外を除けば、内村鑑三にしても、植村正久にしても、大島正健にしても、多くの者がキリスト教関係者であった。例えば、日本の英文学に限ってみても、福原麟太郎が言うように、「殊にこの時代の英文学は、キリスト教と関連して眺める必要があると思う。」（『日本の英語』研究社、1958年、37頁～38頁）まだキリスト教禁制の高札が撤廃されていないころ、中村が、日本近代

化のためにキリスト教を認めるようにと説いて、明治天皇に洗礼を受けるように勧めたという話は有名である。

中村は、晩年はユニテリアンに傾いてゆくが、この人物に関して面白いのは、彼がキリスト教徒であると同時に儒学者でもあったことである。幸田露半は、中村のような漢文の達人でもキリスト教徒になるのだから、キリスト教に関心のなかった者も、この教えを学んでみようという気持ちになる、などと面白いことを言っている。中村が、キリスト教に基づく西洋道徳と儒教道徳に一脉通じるものを見出したことは、一方においては中村の限界を示すものかもしれないが、他方においては、キリスト教に基づく西洋文化を日本に取り込む上で大いに役立ったはずである。

（あの・ふみお）

当面の課題に関する検討委員会報告について

当面の課題に関する検討委員会 吉 田 正 志
委員長（法学部商議員）

1. 付託事項と検討経過の概要

当面の課題に関する検討委員会（以下、本委員会と呼ぶ）は、「東北大学附属図書館の現状と課題（平成5年）」及び「東北大学における図書館機能の強化・高度化に向けて（平成6年）」の2つの報告を受け、とくに広い意味で図書館利用者サービスの改善に係わる当面の諸課題について検討するため、平成7年2月1日開催の附属図書館商議会において設置され、図書館本館に関する次の5点の検討を付託された。

- (1) 指定図書制度
- (2) 逐次刊行物の利用
- (3) 開架図書の利用冊数・期間
- (4) 時間外開館・学外者の利用
- (5) 「漱石文庫」の利用と保存（マイクロ化）

本委員会は、性格の異なる上記付託事項それぞれの緊急度を勘案し、まず(5)を、ついで(1)～(3)を一括して、そして最後に(4)を、という順序で都合7回の委員会を開催して検討し、順次3月16日、7月24日、12月1日開催の附属図書館商議会に報告した。

以下、報告順に従い検討結果を記そう。

2. 付託事項(5)——「漱石文庫」の利用と保存（マイクロ化）について

図書館本館蔵書中に、全国的に有名な「漱石文庫」のあることは周知のことであるが、有名なだけにその利用も多く、時の経過とも相まって、原筆跡の褪色・磨耗等が進み、この貴重な文化財の保存対策が図書館にとり緊要の課題となっていた。保存対策として考えられていた

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

時間外開館についてはこの2つの問題以外にもさらに解決を要するいくつかの問題があるが、いずれにせよ、これら諸問題の克服が時間外開館の前提になるというのが本委員会の認識である。

次にBについて。大学図書館を市民に開放することが最近よく話題となる。本学図書館についてもその例外でないが、実際には、現行規定においても一定の枠内で学外者の本館利用が可能であり、そのことがあまり知られていないことこそ当面の改善すべき事柄であるというのが本報告の趣旨である。

そのため、現行「東北大学附属図書館本館利用細則」から学外者利用関係規定を分離・整理し、学外者も一定の手続きを踏めば容易に図書館本館を利用できることを明瞭にするよう提案した次第である。

もちろん、一般市民が生涯学習等のためにさらに広くかつ容易に図書館本館を利用したいとの要望が今後より高まることもあろう。このような要望に大学図書館としてどう対応するかは、学内各層の意見を十分聴取しつつ時間をか

けて検討すべきことであると判断し、本委員会報告には含めないこととした。

7. むすび

以上、本委員会が検討を付託された事項についての報告内容を記した。大学の評価は、どのような図書館を有しているかによって決まるといっても決して過言でない。本委員会が7回にわたって検討をかさねた結果として得られた上記報告が、図書館本館の改善になにがしかの寄与をなしうれば幸いである。

しかし、図書館の改善を促すもっとも有効なものは、なんといっても日常的な利用者の声である。本委員会報告に問題を感じたならば、忌憚なく図書館にその意見をお寄せいただきたい。本委員会は報告の提出とその了承により解散したが、商議会が利用者の声を受け止めるはずである。東北大学附属図書館をより利用しやすい充実したものにするために、学内各層の一層のご協力をお願いして、本稿のむすびとしたい。

(よしだ・まさし)

第50回東北地区大学図書館協議会総会

標記総会は、平成7年9月21日～22日の両日、秋田経済法科大学附属図書館を当番館としてアキタニューグランドホテルを会場に加盟館から41館（新規加盟館含む。）76名の参加を得て開催された。

当番館秋田経済法科大学附属図書館鎌田事務長の司会により開催され、秋田経済法科大学附属図書館安保館長の開会の挨拶、井上学長の歓迎の挨拶、常任幹事館東北大学附属図書館小山館長の挨拶があり、議事に入った。

本総会では、永年勤務表彰について、元秋田大学附属図書館佐藤 尚氏に対し、永年にわたる図書館活動ならびに本協議会への貢献を賛

え、常任幹事館長より所属図書館長を介して退職時に表彰状と記念品の伝達が行われた旨の報告があった。

総会における主な協議事項ならびに各部会での協議事項は以下のとおりである。

- (1) 役員改選について
- (2) 新規加盟について

秋田公立美術工芸短期大学から新規加盟についての要望が出されたが、満場一致で加盟が承認された。
- (3) 県内図書館の相互協力のための組織づくりについて
- (4) 本協議会における国立・公立・私立部会合

同の職員研修会について

秋田県立農業短期大学から提案理由の説明があり、総会での協議のほか、公立部会での協議の結果、平成7年度から一本化することとなった。

国立部会

- (1) 学習用図書の選定について
- (2) 学生用図書の選定と予算配分について
- (3) 図書館における防災体制整備上の問題点について
- (4) 図書館職員の情報処理業務の資質について

公立部会

- (1) 本協議会における国立・公立・私立部会合同の職員研修会について

私立部会

- (1) 学生に対する「図書館利用指導」のあり方について

等、各大学図書館が直面している課題について、幅広く情報交換が行われた。

本総会における記念講演は、井上隆明秋田経済法科大学長により『砂金と鉄砲衆』と題して行われ、参加者一同深い感銘を受けた。

次回総会は、山形大学が当番館として開催することとなった。

第36回東北地区医学図書館協議会

標記協議会は、平成7年10月12日（木）～13日（金）の両日、当番館東北大学附属図書館医学分館（長陵会館）を会場として、加盟館7大学から館長（分館長）及び主任司書15名が参加して開催された。

議事に先立ち林分館長から挨拶があり、会則に基づき議長に当番館の林分館長が選出され、出席者の自己紹介の後、議事に入った。報告事項、承合事項及び協議事項等は以下のとおりである。

報告事項：①各館の近況報告、②日本医学図書館協会理事会報告、③日本医学図書館協会評議員会報告、④B L D S C (British Library Document Supply Center) 文献複写利用報告。

承合事項：①ADONISの導入について、②利用者用パソコンの設置について。

協議事項：①平成7年度情報検索担当者会議

について、②次期評議員（館）の選出について、③協会理事候補者の推薦について、④協会監事候補者の推薦について、⑤協会出版物「年次統計」の次期編集担当館について、⑥第67回日本医学図書館協議会総会における東北地区からの提出議題について、⑦次期当番館について。

特に各館の近況報告では、購入外国雑誌の見直し、増築、WWWサーバ、データベースサービス、図書館電算システム、週及入力、自動入退館システム導入による時間外開館の運用状況等について活発な意見交換が行われた。

また、協会出版物「年次統計」の次期編集は他地区へ依頼することが確認され、次期評議員（館）に奥羽大学図書館を選出、次期当番館には奥羽大学図書館を決定し、2日間にわたる会議を終了した。

（医学分館）

平成7年度東北大学附属図書館職員総合研修会

標記研修会が、11月2日（木）午後1時30分より、2号館大会議室において開催された。

「大学図書館の公開」をテーマにした今年度

の研修会は、東北地区大学図書館協議会国公私合同研修会を兼ねており、時雨模様のなか、28館から66名の参加があった。

はじめに、関西大学文学部教授倉橋英逸氏から「大学図書館の公開について」と題した講演があった。

倉橋氏は、まず、社会が成熟した知識社会へと変化してきたことや、大学が生涯学習機関としてその役割を変化させてきたことなどを歴史的に考察するとともに、情報化・ネットワーク化に代表される大学図書館の変化について述べられた。

つぎに、これらをふまえ、大学図書館の公開のあり方について、最初にその理念を確立すること、公開に関する規定を設けて、学内体制を整備すること、公共図書館と連携して役割分担をすることなどを論じられた。とりわけ、生涯学習時代における図書館員の不断の研修と自己開発の必要性が強調された。

つづいて、本館情報管理課専門員石田義光氏から、大学図書館の公開活動の一環という観点

で、「展示会にみる狩野文庫」と題した講演があった。

石田氏は、過去において盛んに行われた本館の展示会のうち、大正14年から昭和49年に至る計167回について開催テーマを分析し、本館蔵書の特色の一つである狩野文庫の質の良さ、ジャンルの広さ、そしてこれを活用した先人の図書館活動の激しさを熱っぽく解説された。

当時のエピソードをまじえながらのユーモアあふれる講演に、会場のあちらこちらから笑いがもれる和やかな雰囲気の中に研修会は閉会となった。

今回の2つの講演は、扱う内容に新旧の違いこそあれ、公開によって多様に要求される図書館活動とそれに対応する図書館員の資質向上の必要性について、改めて認識させられる内容であった。

(総合研修委員会)

国立大学附属図書館協議会シンポジウムに参加して

情報サービス課閲覧第一掛 大 原 正 一

平成7年10月19日から20日まで、筑波大学附属図書館を会場として、「第8回国立大学附属図書館協議会シンポジウム」が開催された。今回のテーマは「大学図書館における防災・安全管理と緊急事態への対応について」である。

「阪神・淡路大震災」の記憶が生々しいのに加え、本学は「宮城県沖地震」の被災経験もあることから、興味深い気持ちで、このシンポジウムにのぞんだ。

今回のシンポジウムの主な内容は、災害に関する「講演」「事例報告」「全体討議」などである。

災害の「事例報告」では、スライドをまじえて被災状況の説明があった。「阪神・淡路大震

災」については、各種マスコミが積極的に報道して来たが、被害の状況は図書館も例外ではなかった。多くの書架が将棋倒しになり、大量の図書が床一面に散乱している様子は、やはり大変なものである。万一この場に利用者がいたことを考えると、背筋が寒くなる思いがした。

被災状況の説明に続いて、災害からの復旧についても述べられた。被災当初は、職場の同僚の安否を確認するのも容易ではなく、交通機関の混乱のため、図書館に出動するだけでも、非常に苦労したとのことである。

その後、全国から援助の手が届き、次第に復旧して来たが、この援助の方法について、被災した図書館によって意見が二つに分かれた。一

方は被災後できるだけ早い時期に大量の人員による援助が必要であるという意見。他方は被災直後は言わば「面会謝絶」の状態、援助に対応することも困難であり、このような時期は特に災害復旧の専門家の援助が望まれるという意見であった。

被災した図書館の規模や被害の状況によって復旧の仕方も異なるのだろう。どちらが正しいという問題ではないような気がする。いずれにせよ、災害復旧支援の難しさを痛感した。

以上が「事例報告」についてである。この他に防災と被災に関する「基調講演」があった。基調講演における話の中に「地震・雷・火事・親父」という昔からの言い伝えが出てきた。言うまでもなく、世の中の怖いことの順番であるが、第一位の地震はどの時代も不動である。これは一つには、いつ起こるか予測できないことにより、もう一つには生活基盤である地面そのものが揺れ動く恐怖感によるという。しかも地震は地球内部の活動であり、避けることができない。

基調講演では、この避けられない地震に対しどのように図書館を守るかの説明があった。

第一は蔵書を地震災害から守る。書架の転倒や図書の落下は地震のたびに見られ、その防止策も幾つか考案されている。しかし地震対策を意識するあまり日常の図書館利用に支障を来すのも問題である。重要なことは地震対策と図書館利用の便宜性との兼ね合いで、そのためには資料の重要性に応じた保管方法が大切であるということだった。

第二は情報処理の機器を守る。今回の地震において、ハードウェアの耐久性は、かなり大きいことが判明した。これは一つには、宮城県沖地震における本学の経験が教訓になっているといわれる。問題はネットワーク関係で、通信回

線が寸断された場合の対応策（例えば通信衛星の利用）が重要であるということだった。

以上が基調講演で解説された、図書館を地震から守るための二つの方法である。

確かに、地震が発生したときに図書館を守ることは重要である。しかし、もっと大切なことは、図書館の利用者を被害から守ることではないだろうか。最近の地震では、幸いなことに利用者の被害は出ていない。記録によれば、宮城県沖地震が発生したとき、本館は延長開館中であつたが、やはり被害者は出ていない。

今までは人的被害が無かったものの、残念なことに、将来もそうとは限らないのである。

今回のシンポジウムでは、地震における利用者の保護についても討議されたが、次の二点が特に考えなければならない問題に思えた。

一つは「身体の不自由な利用者」や「外国人の利用者」への対応である。これは、自分自身怪我をして十分に歩けないときや、不慣れた外国にいるときに、地震に遭遇したことを考えれば理解できるのではないだろうか。

もう一つは「開館時間延長時」に発生する地震への対応である。最近、大学図書館の開館時間の延長は進み、無人で24時間利用できる図書館もある。このような図書館が、深夜に地震が発生したとき、利用者の安全のために、どのように対処すべきかは重要な問題に違いない。

問題を提起するだけで、具体的な対応策は見い出せないでしまった。本館は地震被害の経験を持つ、数少ない図書館の一つである。この経験を忘れることなく、引き継ぎながら、いつ来るか分からない災害に備えなければならない。今回のシンポジウムに参加し、改めて、そう感じた。

（おおはら・まさかず）

附 属 図 書 館 の 概 況

この概況は毎年実施される大学図書館実態調査のうち主な項目をとりまとめたものである。表1は平成4年～平成6年度の概況、表2は平成6年度部局別のそれである。

表 1

区 分		平成4年度	平成5年度	平成6年度
蔵 書	和	1,578,784 冊	1,615,139 冊	1,648,977 冊
	洋	1,538,284	1,570,385	1,606,278
	計	3,117,068 冊	3,185,524 冊	3,255,255 冊
所 蔵 雑 誌 数	和	24,427 種	20,771 種	22,153 種
	洋	30,511	34,717	35,315
	計	54,938 種	55,488 種	57,468 種
年 間 受 入 数	和	33,272 冊	36,354 冊	33,762 冊
	洋	33,745	32,102	34,920
	計	67,017 冊	68,456 冊	68,682 冊
年 間 雑 誌 受 入 数	和	10,227 種	10,503 種	11,177 種
	洋	10,467	9,355	9,205
	計	20,694 種	19,858 種	20,382 種
奉仕対象 者 数	学 生	16,551 人	17,133 人	17,677 人
	教 官	2,414	2,487	2,504
一人当り 奉仕対象	蔵 書 数 (冊)	164.4	162.4	161.3
	年間受入冊数(冊)	3.5	3.5	3.4
	図書館資料費(千円)	45.7	46.7	35.7
図 書 館 職 員 数	総 数	140	138	146
	専 任	75	73	82
	臨 時	65	65	64
図書館職員1人当り奉仕対象者数		125.5	142.2	138.2
図 書 館 資 料 費 (千円)		867,556	915,528	719,917
大 学 総 経 費 (千円)		75,510,543	92,561,000	86,423,354

表 2

部 局		職員数（人） 正定員外職員 の内数	蔵 書（平成7年3月31日現在）						平 成 6 年 度 受 入 冊 数						平 成 6 年 度 経 費					施設（平成7年3月1日現在）				
			図 書（冊 数）			雑 誌（種類数）			図 書（冊 数）			雑 誌（種類数）			図 書 館 資 料 費				運営費 職員給与 除（千円）	座席数 （席）	延面積 （㎡）	閲覧室 スペース （㎡）	書 庫 スペース （㎡）	収容可能 冊 数 （冊）
			和	洋	計	和	洋	計	和 （5%増入）	洋 （5%増入）	計 （5%増入）	和 （5%増入）	洋 （5%増入）	計 （5%増入）	図 書 （千円）	雑 誌 （千円）	その他 （千円）	計 （千円）						
本 館	本 館	61 (25)	634,763	329,628	964,391	9,266	9,947	19,213	10,983 (8,454)	5,484 (4,414)	16,467 (12,868)	2,993 (560)	987 (681)	3,980 (1,241)	32,590	8,230	4,108	44,928	232,618	1,137	18,215	4,180	6,847	1,739,111
	文 学	2 (2)	217,000	124,093	341,093	1,081	830	1,911	6,372 (4,930)	3,633 (2,062)	10,005 (6,992)	644 (351)	667 (596)	1,268 (947)	54,496	9,617	0	64,113	5,527	1	68	2	10	4,972
	教 育	2 (1)	49,338	33,681	83,019	650	322	972	979 (528)	1,175 (554)	2,154 (1,082)	613 (138)	284 (275)	897 (413)	9,668	6,352	0	16,020	9,491	20	268	89	90	11,950
	法 学	3 (0)	92,392	120,425	212,817	974	599	1,573	2,408 (1,280)	2,284 (1,784)	4,692 (3,064)	871 (230)	586 (507)	1,457 (737)	25,168	10,748	10,444	46,360	3,704	35	835	65	580	80,778
	経 済	5 (1)	161,321	155,157	316,478	1,449	975	2,424	3,723 (2,335)	2,298 (1,980)	6,021 (4,315)	863 (141)	508 (429)	1,371 (570)	41,479	16,721	0	58,200	5,056	18	282	45	125	27,472
	遺 生 研	1 (0)	17,718	11,524	29,242	418	317	735	55 (11)	231 (50)	286 (61)	127 (34)	89 (73)	216 (107)	1,094	4,497	0	5,591	1,056	4	206	18	160	32,638
	素 材 研	2 (2)	7,786	15,793	23,579	151	344	495	171 (79)	386 (86)	557 (165)	97 (54)	109 (82)	206 (136)	2,158	8,648	0	10,806	3,898	16	246	37	144	25,972
	科 研	1 (0)	4,302	15,830	20,132	58	239	297	45 (24)	511 (98)	556 (122)	26 (9)	64 (64)	90 (73)	2,000	10,398	0	12,398	1,222	20	574	58	375	36,556
	流 体 研	2 (2)	12,346	18,218	30,564	66	356	422	121 (66)	337 (98)	458 (164)	51 (38)	118 (108)	169 (146)	2,127	8,469	22	10,618	7,538	7	151	10	106	27,778
	通 研	2 (0)	7,659	20,034	27,693	219	427	646	244 (61)	610 (83)	854 (144)	117 (100)	186 (180)	303 (280)	1,764	15,405	137	17,306	3,003	10	275	20	235	39,667
	反 応 研	2 (1)	6,576	22,201	28,777	106	416	522	130 (15)	620 (87)	750 (102)	67 (33)	125 (113)	192 (146)	4,697	15,575	0	20,272	3,715	21	382	63	252	39,389
	サイエロトロン	2 (2)	864	3,571	4,437	7	32	39	0 (0)	184 (0)	184 (0)	7 (7)	30 (30)	37 (37)	0	4,870	0	4,870	7,240	4	98	12	35	5,728
	大 計	1 (1)	2,103	1,914	4,017	47	46	93	0 (0)	7 (7)	7 (7)	49 (49)	36 (35)	85 (84)	94	2,188	40	2,322	4,583	1	91	3	76	6,555
	計	86 (37)	1,214,168	872,069	2,086,237	14,492	14,850	29,342	25,231 (17,783)	17,760 (11,303)	42,991 (29,086)	6,542 (1,744)	3,729 (3,173)	10,271 (4,917)	177,335	121,718	14,751	313,804	288,651	1,294	21,691	4,602	9,035	2,078,566
医 学 分 館	20 (11)	148,047	226,317	374,364	2,863	9,067	11,930	2,722 (1,343)	5,131 (433)	7,853 (1,776)	1,247 (493)	2,384 (2,056)	3,631 (2,549)	20,682	90,206	2,485	113,373	55,428	327	4,025	256	2,190	418,222	
北 青 葉 山 分 館	11 (5)	65,596	248,580	314,176	1,323	5,927	7,250	974 (590)	4,734 (787)	5,708 (1,377)	881 (230)	1,347 (793)	2,228 (1,023)	18,926	83,768	292	102,986	40,628	248	3,356	1,140	1,310	296,194	
工 学 分 館	17 (6)	139,471	156,595	296,066	1,562	3,427	4,989	2,981 (2,010)	4,470 (1,915)	7,451 (3,925)	1,124 (362)	878 (845)	2,002 (1,207)	48,740	72,433	347	121,520	40,117	429	5,355	2,414	605	278,833	
農 学 分 館	6 (2)	64,402	48,564	112,966	1,795	1,418	3,213	1,741 (606)	1,727 (280)	3,468 (886)	1,104 (145)	596 (307)	1,700 (452)	8,477	25,152	291	33,920	13,702	72	1,279	326	418	98,944	
計	52 (24)	417,516	680,056	1,097,572	7,543	19,839	27,382	8,418 (4,549)	16,062 (3,415)	24,480 (7,964)	4,356 (1,230)	5,205 (4,001)	9,561 (5,231)	96,825	271,559	3,415	371,799	149,875	1,076	14,015	4,136	4,523	1,062,193	
金 研	6 (3)	17,293	54,153	71,446	118	626	744	113 (32)	1,098 (278)	1,211 (310)	279 (60)	271 (166)	550 (226)	6,470	27,070	774	34,314	9,280	35	515	169	234	63,333	
総 計	146 (64)	1,648,977	1,666,278	3,255,255	22,153	35,315	57,468	33,762 (22,364)	34,920 (14,996)	68,682 (37,360)	11,177 (3,034)	9,205 (7,340)	20,382 (10,374)	280,630	420,347	18,940	719,917	447,806	2,405	36,221	8,907	13,792	3,234,062	

水彩画「山湖新緑」の受贈について

去る9月7日、鳥羽良明元北青葉山分館長(平成2年4月より6年3月迄在任、現宇宙開発事業団首席研究員)より、北青葉山分館に標記の作品が寄贈された。

福島県会津若松市出身の日本画家、春日部たすく氏作、6号水彩画の澄明感に溢れる作品である。新緑の木々に囲まれた湖面を渡るそよ風に、春の息吹が感じられる静謐で爽やかな画は、北青葉山分館の一室を明るく彩っている。

図書館に対して、深いご理解と愛情を注いで下さった鳥羽先生のご好意に心から感謝致します。

先生が図書館を詠まれた歌二首：

コンピュータ端末よりの文献検索

遠き図書館をいま繋ぎゆく

受付に院生アルバイトの君をりて

音なく灯ともる夜の図書館

(北青葉山分館)



マイクロフィルム『第二高等学校一覧』の贈呈式について

東北大学記念資料室 中 川 学

去る10月16日、総長室にて、西澤総長、加藤陸奥雄第二高等学校尚志同窓会宮城県支部長をはじめとする同窓会関係者、および小山館長以下図書館・記念資料室関係者の立会いのもと、『第二高等学校一覧』マイクロフィルムの贈呈式が執り行われた。

この『第二高等学校一覧』は現在の要覧にあたる「学校一覧」と呼ばれるもので、大学・旧制高等学校などの諸教育機関が自校の概要について学内外に伝えるために毎年発行していたものである。それらは学校の沿革・組織・規則・教職員および学生名簿といった内容をもってお

り、往時の学校の様子が手に取るようにわかる。そしてこれらは各教育機関の詳細を現在に伝える数少ない歴史的資料のひとつとして、教育史・学校史研究者を初めとする各方面から注目されてきたものである。（その詳細は『学校一覧目録』戦前編、東北大学記念資料室発行、1988、を参照していただきたい）。

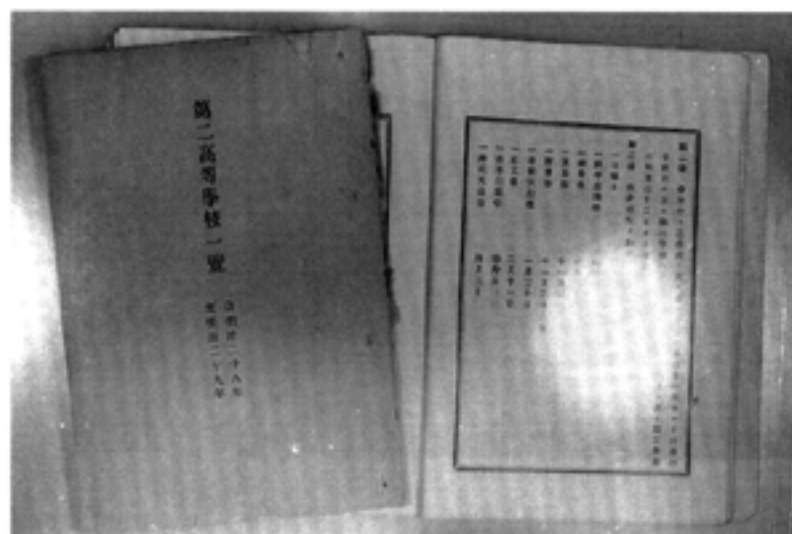
記念資料室には、『東北大学一覧』に代表される「学校一覧」類が約1700点所蔵されているが、その多くは明治・大正期から昭和に作成されたものであり、概して保存状態が良くない。現状では永きにわたっての保存が危ぶまれるものも多いため、早急な対策が望まれていた。

そんな折、平成8（1996）年で創立110周年を迎える尚志同窓会から、同年10月に本室において創立110周年記念展示会を開催してほしいとの申し出があり、その計画等についての話し合いがおこなわれた。そのなかで本室から同資

料の現状について説明がなされ、対策としてマイクロフィルム化の要望を提示したのを受け、同会事務局の加川義一氏を始めとする尚志同窓会がそれを快諾、記念事業の一環として『第二高等学校一覧』全59巻のマイクロ化事業がなされることとなったのである。そして過日、加藤陸奥雄氏から西澤総長へ16ミリフィルム7巻の贈呈がおこなわれ、その検索目録とともに記念資料室に収められる運びにいたった。

この事業によって、貴重な歴史的資料の一部が永久保存されるとともに、今後は研究者ら学内外の利用に供することで学術の進展・文化の振興に寄与することは間違いないであろう。現在、本室では明治・大正期から昭和20年代までの学内行政文書のマイクロ化を検討しているが、今回の動きが今後の資料保存事業のスタートとなることを願ってやまない。

（なかがわ・まなぶ）



人 事 異 動

平成7年12月15日現在

発令年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
7.10. 1	附属図書館情報管理課洋書目録情報掛長	梶 原 孝 夫	山形大学附属図書館情報管理課図書館専門員	転 任
	北青葉山分館整理・運用掛長	佐々木 勝 義	附属図書館情報管理課洋書目録情報掛長	配 置 換
	筑波大学図書館部情報管理課雑誌受入係	内ヶ崎 洋 一	附属図書館情報管理課和漢書目録情報掛	転 任
	宮城教育大学附属図書館整理係長	星 政 則	北青葉山分館整理・運用掛長	〃
	附属図書館情報管理課和漢書目録情報掛	京 極 菊 子	宮城教育大学附属図書館整理係長	〃
11.30	医学分館長	林 典 夫		任期満了
12. 1		高 坂 知 節	医学分館長	併 任
12.12	事務補佐員（医学分館運用掛）	佐 藤 健 一		許 職
12.14	〃 （ 〃 総務掛）	菅 原 順 子		〃
12.15	〃 （ 〃 整理掛）	矢 内 礼	事務補佐員（医学分館総務掛）	配 置 換
12.15		渡 辺 裕 美	〃 （ 〃 整理掛）	採 用

会 議

◎学 内

7. 8. 1 次期システム検討委員会

7 次期システム検討委員会

9.19 当面の課題に関する検討委員会

10. 6 T-L I N E S 導入説明会

〃 T-L I N E S 館内検討委員会

12. 1 附属図書館商議会

○協議事項

(1) 当面の課題に関する検討委員会の報告

(2) その他

○報告事項

(1) 各分館からの報告

(2) T-L I N E S 次期システム検討委員会について

(3) 図書館長・情報処理教育センター長・大型計算機センター長懇談会について

(4) 東北地区大学図書館協議会総会について

(5) 国立七大学附属図書館協議会について

(6) 国立大学図書館協議会理事会について

(7) 公開事業展示会・講演会について

(8) その他

◎学 外

7.10.18 第28回国立七大学附属図書館部課長会議（於：東北大学）

10.19 第68次国立七大学附属図書館協議会（於：東北大学）

10.19 第8回国立大学図書館協議会シンポジウム（於：筑波大学）

10.31 国立大学図書館協議会理事会（於：名古屋大学）

11.16 国連寄託図書館会議（於：京都国連寄託図書館）

編 集 後 記

早いもので、1月の阪神大震災から約1年が過ぎようとしています。

毎年のことですが、今年もいろいろと大きな事件、事故等が思い起こされますが、読者諸兄の今年はいかがだったでしょうか。

「木這子」も今年度の第3号を発行することになりましたが、新しい試みとして、本館の貴重図書についての解説等を「シリーズ」として執筆をお願いしていましたところ、第1回目を

掲載できることになりました。この「シリーズ」を永く続けることが出来ますよう皆様にもご協力をお願いします。

なお、ご多忙中本号のためにご寄稿いただいた皆様、本当にありがとうございました。心からお礼申し上げますとともに、新しい年が希望に満ちた明るい年でありますようご祈念いたします。(S)



東北大学附属図書館報「木這子」 第20巻第3号（通巻72号）発行日 平成7年12月31日

発行人 高橋 裕 広報委員長 門田泰典

発行所 東北大学附属図書館 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5910